

<北の便りー1, 461ー>2017. 12. 14版

3360地区チェンライ RC パスト会長便り

足の短い「足長おじさん」 今から10年前に、私はアカ族子供寮「夢の家」の支援に入った。北タイの山並みが続くまだその山奥で、子供25人が寮生活を送っていた。当時は3時間かけて村に近づいたものの、夜来の雨で道路が寸断され、再び3時間をかけてチェンライに戻ったこともある。そうしてでもアカ子供が生きるための食糧支援から始めた。今は道路事情がいい。約2時間で確実に行ける。私の支援の形も変わった。今は識字向上にと里親支援をする。10年前には、このような制度で子供達を助けるなど想像もつかなかった。今は7歳の子にまで日本人の優しさを届ける。両親のないアーカーちゃんは里親支援金を手にして、その笑顔がたまらない(写真右端)今ではこの寮の子4人を里親制度で助ける。時代の変わりもあるが、私の10年間地道な奉仕なくして今日はない」と自負する。子供たちは私に寄せ書きをくれた。家庭環境に恵まれぬ子たちは、私を父と慕っているのがわかる。いや父ではない。足の短い「足長おじさん」と慕っているのがわかる。

